

第 610 回：Google Scholar を使う（MS）

みなさんこんにちは。火曜日担当の MS です。年末年始はいかがお過ごしでしたでしょうか。私は写本を探して、読んで、転写して、底本と比較することをひたすら繰り返していました。今回は、文献や研究を探すために便利なウェブサイトの Google Scholar を紹介します。レポートを書くときに、どのような先行研究があるかどうかを簡単に調べるのに便利なので、よく使っています。

まず、サイトにアクセスすると、Google 検索のように検索欄が表示されます。そのままだと日本語と英語の記事を検索するのですが、「すべての言語」を押すとその他の言語の文献を探すこともできます。次に、検索したい内容のキーワードを入れてみましょう。たとえば、翻訳学の観点から日本の漫画が英語に翻訳される際の、訳注の役割について調べてみたいとします。その場合 “translation notes”、“Japanese”、そして “manga” のようにキーワードごとに区切って入力します。すると、Fabbretti (2016) の論文が出てきました。この場合、カーディフ大学のレポジトリに保存されているので、[PDF] を押してダウンロード後、自身の端末で閲覧することができます。ほかにも、気になる論文を後から確認できるように保存（ダウンロードではありません）したり、関連記事や被引用数を確認したりできます。とくに、被引用の項目をクリックすると、その論文を引用している論文を調べることができます。たとえば、Fabbretti (2016) を引用している論文として、Okyayuz (2017) の *Naruto* を題材にした論文があります。これにより、同じ現象について、異なる言語の具体例を確認すること

ができました。これより多くの文献を調べる方法として、Fabbretti (2016) と Okyayuz (2017) の参考文献欄にある文献を確認するといいでしょう。

他にも便利な機能として、AI を利用して文献を調査する Scholar Labs という機能があります。最近追加された機能なので、現時点で利用には Google アカウントが必要となります。キーワード形式の検索のみならず、質問形式でも文献を探せて、なおかつ関連性の高い論文がヒットするので今まで以上に楽になったという印象です。

一個人の感想にはなりますが、自分の気になる分野の文献を調べるのが楽になったという反面、デジタル化されていない文献を確認することがおろそかにならないように注意しながら利用しています。結局のところ、文献を読んで、自分の研究をどのように位置づけるかを考えていく作業を繰り返して、自分の研究のあり方を考えることの重要性は AI があっても変わらないことだと思います。なので、今の時代だからこそ、図書館で本を手に取って、その周辺にある本を読んでみたりする経験をしてみてはいかがでしょうか。それでは。

参考文献

- Fabbretti, Matteo. 2016. “The use of translation notes in manga scanlation” *TranscUlturAl: A Journal of Translation and Cultural Studies* 8 (2). 86-104.
- Okyayuz, Ayşe Şirin. 2017. “Examining the Translation and Scanlation of the Manga *Naruto* into Turkish from a Translator's

LA 通信

第 610 回：Google Scholar を使う（MS）

Perspective” *International Journal of English Language & Translation Studies* 5 (3). 161-173.